

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東北)	良くなる	コンビニ（店長）	・客の購買意欲は上昇し、最盛期に向けて売上もかなり上がるかとみている。今の段階でも前年比で上がっているの、夏場にも期待できる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気をこのまま維持することができれば人もモノの動きも良い方向に向くと期待できる。消費者も景気の良さに対する警戒感が薄れ、多少なりとも消費に対して意欲的になるのではと期待している。
		高級レストラン（支配人）	・株価上昇などの景気回復ムードに加え、ボーナス期を迎える。消費税の税率アップを控え、国内での行楽、購買等に向かう要素がある。
		タクシー運転手	・先日、語り部タクシーの講習で震災の被災地を訪れたが、全然変わっていなかった。あそこにこれからいろいろな機材が入れば、少しはみんなのところに行きやすくなるのではないかと。被災地は全然変わってはいなかったが、みんなが一斉にやらなければ、景気は良くならない。
やや良くなる		商店街（代表者）	・暖かくなるにしたがい、東北地方及び当地においても少しは景気の上向き感や、未来や将来に対する期待感が出てくる。飲食に関してはほぼ好調だが、物販関係、アパレル、衣料品に関しても、紳士服や紳士用品の売上が少しずつ改善してきており、全体の景気の上向きを押し上げている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の健康志向が高まっているので、夏場に向かってやや良くなる見込みである。また、周りの景気を見ても、来客数はまずまずであり、必要なものは買っていた状況にあるようである。
		百貨店（総務担当）	・これからの本格的な夏のボーナス商戦で、実際の消費者の所得が上向きになってきた場合には、最終的に当社のような小売業に反映されてくる。今の景況感が実際に売上高につながってくる。
		百貨店（経営者）	・夏季賞与が前年より改善された企業が多いと聞いており、クリアランス、中元商戦に期待が持てる。家電商品が落ち着き、衣料品、身の回り品、雑貨などの売上が上昇してきている。
		百貨店（経営者）	・個別には悪い経済指標もあるが、全世界の経済は回復傾向にある。円高も是正されており、今後、全国的に景気回復が期待できる。一部企業では給与支給を増加させる動きも出てきたことから、地方経済もいずれは景気回復の恩恵を受けることを期待している。
		コンビニ（経営者）	・主力の米飯が前年割れのなか、売上では100%を維持している。この要因はデザート、雑貨の伸びである。どうしても必要なものだけ買うという意識から、少し緩くなって、デザートを買ったり、従来はコンビニより安いドラッグストアやスーパーなどで買っていた雑貨類をコンビニで買うようになっていないかとみられる。景気に明るい材料を見いだしている表れではないか。
		コンビニ（エリア担当）	・震災特需の影響が薄れてきたタイミングなので、今年は来客数が前年比で伸長する可能性がある。
		コンビニ（エリア担当）	・株価の上昇などにより、客の消費意識が上がっている。
		衣料品専門店（経営者）	・気温も上がり、夏物が売れてくる。
		衣料品専門店（店長）	・今年の夏は暦通り暑くなるという予報が出ていることと、景気上向きというニュース報道があることが、消費者の景気の見通しを明るくし、消費行動につながっていく。
		家電量販店（店長）	・上昇の度合いはアベノミクス効果が夏の賞与にどこまで好景気となるプラス要素を与えるかにより変わってくるが、消費マインドの上昇が見込まれる。
		家電量販店（店長）	・今まで落ち込んでいたテレビの販売量が徐々に元に戻るのではないかと期待している。特に新製品の4Kテレビが販売されて、需要が再度喚起されるのではないかと。その他、冷蔵庫や洗濯機、エアコンなど通常の買い回り商品、白物家電等の交換需要は引き続き堅いものがあると考えている。春あたりから単価は上がっているの、景気が少しずつ上向きになっているという感触もある。
		乗用車販売店（経営者）	・新型軽自動車の発売効果が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の投入もあり、今まで購入を渋っていた客が購入を決断するようになってきている。

乗用車販売店（店長）	・3月の決算や4月の新卒者効果などの反動があり、今月は落ち込み傾向にあるが、今後補助金も始まり、ディーゼル車の販売台数が伸びている当社としては期待が持てる。
その他専門店〔靴〕（従業員）	・夏場に向けて、サンダルの品ぞろえを強化していく。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・アベノミクス効果が中央だけでなく、地方にまで恩恵をもたらすが、ややパブ的な面は否めない。今後の経済政策と財政再建策次第である。
高級レストラン（経営者）	・相対的に景気は上がり基調なので、何となく先は明るいのではないかと期待している。
一般レストラン（経営者）	・今年に入ってから、売上は前年比で良くなってきている。少しずつではあるが、アベノミクスの影響もあり、景気が良くなってきているようである。これが本物がどうかはまだ何ともいえないが、良くなりつつある。
都市型ホテル（スタッフ）	・寒気に悩まされたとはいえ、全国的には間もなく田植えも終わりそうであるし、農作物も植えこみが終わっているようである。これから、農業の人やボーナスが出た人々が買物に出てきて、若干持ち直してくると考えている。
旅行代理店（店長）	・当地においては、今後さらなる復興需要が見込まれるため、消費マインドは微増していくものと予想される。
旅行代理店（従業員）	・アベノミクス効果、消費税増税前の駆け込み需要等が期待される。特に、耐久消費財に対する購買意欲が積極的になるものと予測される。
通信会社（営業担当）	・株価が乱高下する状況のなかで、雰囲気は良いが、先行きがどうなるか、特に消費財の値段が上がっているということが不安につながっていくのではないかとみられる。サラリーマンの給料もすぐ上がるわけではないので、業績回復が期待できるのは1、2年後くらいになるのではないかと。
通信会社（営業担当）	・アベノミクス効果が出てきている。
通信会社（営業担当）	・ここ数か月、既存の商品で売上が低下しなかったことから予想すると、来月からの新商品の導入や既存の販売メニューの見直し、そして値下げや商品の品質向上によって売上増加が期待できる。
観光名所（職員）	・前年の当日の予約状況と比べても、今年の予約は増えている。また、客単価も伸びているので、このまま来客数が増えれば売上も自然と伸びていく。来た客に関しても財布のひもが緩いという感覚はある。
その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・東北では、電気料金の値上げ時期の延期が好材料である。夏期の需要期以降に値上げになってほしい。夏の消費行動にも影響が大きい。
住宅販売会社（経営者）	・消費税が上がる新年度前の完成条件物件も多く、年内は受注量も多い。
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・消費税増税前の大型の工事受注を見込んでおり、宣伝も強めている。
変わらない	<p>商店街（代表者）</p> <p>・電力関係の料金の値上げその他が解決しないと、景気の回復もなかなか先へ進まず、落ち込んでいく。</p> <p>商店街（代表者）</p> <p>・お中元や旅行といった、いわゆるムードに流される消費はともかくとして、20年近い節約消費生活をしてきているので、これが簡単には変わるはずはない。商業でいえば日の当たる大型店、相変わらず競争のなかで沈んでいく小型店という図式は変わらない。値上がりする光熱費、人件費を吸収できるほどの売上増は難しいと判断している。</p> <p>商店街（代表者）</p> <p>・徐々に梅雨の影響を受ける時期になり、人出の伸びは期待できないなか、ファストフード店、飲食店は苦戦が危惧される。物販関係も好不況入り乱れ、あまり変化が無いとみられる。</p> <p>商店街（代表者）</p> <p>・地方には株価の上昇も関係ない。</p> <p>商店街（代表者）</p> <p>・年初はアベノミクス期待を込め、商店街全体が期待する明るい話題が多かったが、給料にまだ反映されていないことから、最近では目立った消費増が見られない。</p> <p>一般小売店〔書籍〕（経営者）</p> <p>・アベノミクス効果がいわれているが、地方の消費にはあまり影響がみられない。</p> <p>一般小売店〔酒〕（経営者）</p> <p>・売上は伸びもしないがそんなに落ちもせず、低い水準で変わらないとみられる。</p> <p>一般小売店〔医薬品〕（経営者）</p> <p>・客の多くが生活防衛に走っているなか、実際に諸物価が上昇に転じれば、ますます不要不急の消費は抑えられてしまうのではないかと。しかし、物価が上昇に転じたとなれば、金利も上昇するとみられ、金利の上昇は財政にも重大な影響があるため、このままパブ経済に進むことは考え難い。今後適切な引き締めがなされると考える。</p> <p>一般小売店〔寝具〕（経営者）</p> <p>・いまだに客の動向がつかめない。何ともいえない状況が続くとみられる。</p>

百貨店（売場主任）	・地方では今の報道にあるような動きはない。落ち着いて今後の情勢を見守っている。慎重な物選びは続く。
百貨店（企画担当）	・夏のボーナス支給時期にあわせ、引き続き高額商品を中心に堅調に推移すると予測するが、中元商戦時期の国政、市政の動きによる一時的な停滞も懸念される。まだまだ一部の動きが良いだけで、消費全体が良くなっているという実感はない。
百貨店（営業担当）	・株価が乱高下するなど不安定な要素はあるが、おおむね今の動きは変わらない。ただし、中元商戦については、参議院選挙の影響が多少あるとみられるため、前年の数字を維持することができるかは不明である。
百貨店（経営者）	・6月は気温も上がってくるが、アパレルはプレクリアランスがスタートするため、利益面では厳しい結果となりそうである。
百貨店（売場担当）	・百貨店は気温に左右されるため、梅雨や夏の気温が売上に影響を及ぼすが、基本的には景気状況は大きく変わらない。消費税増税前の駆け込みが多少影響するかもしれないが、そう変わらないとみている。
スーパー（経営者）	・夏のボーナスで景気回復の実感があればプラスになるが、それまでは日常の消費回復は期待できない。
スーパー（経営者）	・6月は一部団体、企業で夏期賞与の支給がある。また、中心的な支給月の7月からは上場企業で賞与が前年をやや上回るとの話も聞かれるので、消費増への期待はある。しかし、同時に食品の値上げや公共料金の支出増もあり、経営環境では競合関係も厳しさを増し、消費改善は依然として見えてこない。製造業や輸出企業などの国内への投資は薄いようにも見える。しばらくはこのままではないか。
スーパー（店長）	・中央では景気回復傾向にあるということだが、地方ではそういった実感は全くない。オーバーストアのなか、まだまだ出店予定の競合店があり、1点単価、来客数の回復は望めない現状である。
スーパー（店長）	・油、粉類、パン類等の値上げも控えている。また、円安による輸入品の原価高騰で、店舗における販促売価が打ち出せない状況になり、より競合店間での価格ディスカウント、消耗戦が続く見込みである。食品小売業界はいたって厳しい状況にある。
スーパー（店長）	・周りに競合店の出店予定もなく、現状の客数動向から考えると、現状と変わらない。
スーパー（店長）	・円安の部分での輸入関連、特に食料品等の値上げが非常に危惧される状況である。ボーナス等の一次回答では、円満回答が出ているが、自動車関連を含めて景気の良いところ、中小を含めて景気の悪いところが浮き彫りになってくる。
スーパー（物流担当）	・今月に入り、輸入原材料を使用した商品の値上げがメーカーより出されており、加工食品中心に売行きが鈍ることが予想される。客の無駄買いはしないという節約感が今以上に働き、景気は今と変わらないと予想される。
コンビニ（経営者）	・4、5月と悪い状況が続いている。そういった面ではこれから先も、良くて横ばいになるのではないかと。
コンビニ（エリア担当）	・来客数、客単価共に向上く要素が現在のところ見当たらない。
コンビニ（エリア担当）	・前期末に大きく競争環境が悪化しており、一巡するまではこの状況は続くとも予測している。
コンビニ（エリア担当）	・天候や気温の変化により、来客数は増えていくとみられるが、出かける回数は増えても、大きな金額を使わず、消費が大きく跳ね上がることはないとも予想している。
コンビニ（店長）	・来客数が減少しているため、売上は増えていない。よって、客単価を維持して現状維持に努めたい。
衣料品専門店（経営者）	・中元商戦に向けての商品開発や販売価格の設定に苦慮している。
衣料品専門店（経営者）	・業種的に1年を通して春、秋がピークで夏、冬へは下り坂であることを考えれば2、3か月後は期待できない。
衣料品専門店（店長）	・スーツがクールビズ等で段々売れなくなってきている。また、前年、前々年と膨れたマーケットであるので、主力のスーツがなかなか売れないという状況がトレンドとして続くであろう。客の様子から、あるいは流れからそのようにみている。したがって、厳しい状況が続くと予測している。
衣料品専門店（店長）	・当県の景況感に変化は無い。復興需要も落ち着き、買い控えも多い。
衣料品専門店（総務担当）	・販売価格及び販売点数にはまだかい離があるため、購買行動にはまだまだ厳しい部分が見受けられる。
家電量販店（店長）	・現状においても、世間で言われているような給与改善などがなされていない。

乗用車販売店（経営者）	・前年はエコカー補助金の恩恵を強く受けた時期であり、今年はその反動を受け、約15%前後の前年割れが当分続くものと考えている。
乗用車販売店（経営者）	・市場の動きそのものが大きく変化していないため、このまま継続する。
乗用車販売店（従業員）	・1年前も今も全く変わっていないので、今後3か月といった短いスパンで来客数が急に増えたりするとは考えにくい。
乗用車販売店（店長）	・アベノミクス効果も地方都市には恩恵が薄く、中小企業においてはむしろ不況感が漂っている。企業状況が個人ユーザーにも波及しており、財布のひもも固い。
自動車備品販売店（経営者）	・建設業関係においてはいくらか仕事が出てきているようではあるが、それだけではまだ弱いだろう。弱電系も臨時賞与が出たと聞くがほんの一握りに過ぎない。
住関連専門店（経営者）	・期待はしているものの、アベノミクスの効果が地方に表れるのはいったいいつになるのかわからない。
住関連専門店（経営者）	・我々の扱っている耐久消費財への購買意欲が変化するような外的要因は今のところ無いので、現状のまま推移するとみている。
住関連専門店（経営者）	・今月は小間物がよく出ており、その傾向は2、3か月先も変わらないとみられる。耐久消費財は金額がはるので、景気が少し回復したといっても販売量には結び付かない。今後も小間物で勝負していくしかない。
その他専門店〔パソコン〕（経営者）	・これから数か月は消費税の影響もあって、動きや売上向上への影響があるとみている。しかし、一時的なことであり、市場の一般ユーザーの財布は潤っていないのが現状であることから期待は薄く、今後も地方において景気が上向きことは期待できない。
その他専門店〔酒〕（営業担当）	・状況としては、一進一退が続くとみられる。商売としては質的な転換を進めて、利益を確保しなくてはならない。売上は何とか維持できる可能性はあるが、燃料や電気、資材等、原価が上がってくるため、しばらくは厳しい状況が続く。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・景気に対する期待感はいたるどころでうかがえるが、我々が実感できる日が来るとは考えられないような状態である。円安による輸入品の値上げが予想されているなか、消費の力がそれを上回るとは考えにくい。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・基本的に景気の回復が石油業界に及ぼす影響は、一般の業種に比較すると若干遅れて出てくる傾向があり、今回も影響は夏以降に出てくると予想される。それまでは今の状況で推移しそつである。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・外部環境、内部環境のいずれにも大きな変化が予想されない。
一般レストラン（経営者）	・アベノミクス効果が出て、給料が上がってくると変わるのだろうが、半年後はともかく3か月後は変わっていない。
一般レストラン（経営者）	・知り合いのサラリーマンの話を聞くと、実際に給料が上がっているわけではないので、急に出費を増やすようなことは当面はないだろうという意見も多い。しばらくは、出し渋りの状態が続くのではないかと予想している。
スナック（経営者）	・歓送迎会も終わり、特に団体の動く要素がなくなってくる。当地においては景気が良くなるような空気も流れておらず、明るい兆しも今のところあまりない。
観光型ホテル（経営者）	・震災後3年目に入るが、客足は激減しており、どの月も前年比マイナスである。また、夏場のため温泉地は難しい。
観光型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの報道の割には、やはり来客数の業種間、あるいは年齢別での格差が大きく、まだまだ満遍なく来客している状況ではなく、偏った予約状況が続いている。単価を下げなければ、来客につながらないという、デフレ状況からまだ脱していないということである。
観光型旅館（経営者）	・当温泉地は県沿岸部や農家の客が半分を占めていたが、先の震災の影響で経済的に大きな打撃を受けており、県内の一般客が宿泊するという流れにはまだなっていない。さらに、今年になってから、将来の生活に対する不安が実感として出てきているようで、温泉で一泊という雰囲気ではない。
都市型ホテル（スタッフ）	・アベノミクスの影響ではないが、消費者のマインドは格段に回復している。しかし、実態の部分でいうと、まだまだ実感はない。今後、確実な政策実行により、実感できるようになることを願っている。
都市型ホテル（スタッフ）	・復興イベントも終わりが見えてきたように見受けられる。
タクシー運転手	・客の乗り控えが目立ってきている。

	タクシー運転手	・相変わらず、仕事を求めているも無いという方が客のなか に。長期の職業を希望している人が大半だが、派遣の短 期だけで、継続した仕事は無い。長期の仕事が無いと不安定 で落ち着かない。これでは景気は良くならない。
	通信会社（営業担当）	・具体的な好材料が見当たらない。
	通信会社（営業担当）	・景気不安定も否めない状況であり、消費があまり伸びてい ない。収入が伸びる見込みが確定するまでは消費面でも様子 見が多い。
	通信会社（営業担当）	・顧客訪問の際、景気の話となるが、大体は変わらないとの 話であり、今後もすぐには変わることはないと思われる。
	テーマパーク（職員）	・最近の株価の下落ぶり金利の上昇の影響で将来不安が生 じる。さらに、ボーナス期に消費税増税への懸念により買い 控えが発生する可能性がある。実際、アベノミクスの効果が まだ一般的には波及しておらず、効果を実感できていない。
	観光名所（職員）	・世間でいわれているような、景気上昇感はない。景気 当局面況が継続するとみている。
	遊園地（経営者）	・梅雨入りが早く、かつ長引きそうで心配な面はあるが、学 校、団体を中心に訪れる見通しである。あとは昇給、賞与が どれくらい消費に繋がるかである。
	競艇場（職員）	・景気が上向いていると言われているが、今よりもっと景気 が良くならないと当業種にまでは影響は出てこない。
	美容室（経営者）	・単価的に同じような状況が続いており、この状況が大きく 変わるような要因も見えてこない。現在の状況はしばらく続 くと考えている。
	美容室（経営者）	・毎月毎月、来客数は少しずつ増えているが、一気に景気が 上昇するものではない。
	設計事務所（経営者）	・先の読めない状況が続いているが、急に仕事量が増えたり 減ったりはしない。
やや悪くなる	一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・衣替えの季節になったが、夏物の伸びがない。かなり厳し い状況になる。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・これからの季節、7月には参議院議員選挙、8月には市長 選と続いている。繁華街は選挙があると非常に不景気になる ので悪くなる。
	百貨店（買付担当）	・株価の高騰、円安等の一部の部分では効果が出ているもの の、相対的に言うと、消費税増税を控え、消費は冷え込む。
	スーパー（店長）	・円安の影響で6月以降食料品の仕入原価の値上げが決まっ ており、販売価格に転嫁せざるを得なくなる。一方、世の中 の景気が良くなっているように言われているが、個人の暮ら し向きや収入は増えておらず、期待感とは裏腹の結果になっ ている。
	スーパー（総務担当）	・節約志向により、花、ベーカリーなどの売上が減少してい る。小麦等の値上げによる販売価格値上げにより、日販品の 売上が減少している。
	コンビニ（経営者）	・気温が低く、夏商材の売行きが良くない。輸入原材料の高 騰による売価の値上げが心配である。
	コンビニ（店長）	・震災の義援金等の貯金を使い果たしたようで、消費マイン ドは下がってきたという印象がある。客の消費動向は、アベ ノミクスで景気が良くなっているという報道とは大分かけ離 れ、逆に反比例しているかのようである。具体的には、低価 格商品を必死に探して、最高の満足を最小限の出費で得よう という心理が見え隠れしている。
	衣料品専門店（経営者）	・来月から夏物のバーゲンに入る。客の多くはバーゲン待ち の意識が強く単価のダウンが予測されるが、来客数増は期待 できない。よって、悪い状況が続く。
	高級レストラン（支配人）	・ついに雇用の現場でもグローバル化が進み、アメリカ並み の競争世界がやってきた。個人の資質や才能がふるいにかけ られ容赦ない淘汰が始まるだろう。
	一般レストラン（経営者）	・その月によって浮き沈みがあり、景気の先行きは予想がつか ないが、あまり期待はできない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・当地ではマスコミで騒がれているような、好景気の実感 は全くなく、この先の予約状況にも変化は無い。むしろ原材 料の高騰が支出面で気懸かりである。
	旅行代理店（経営者）	・今後の見通しとして、復興需要が見込めなくなってくるの であれば、前年割れになるし伸びも鈍化していく。
悪くなる	スーパー（経営者）	・アベノミクスにおけるプラス要因はまだまだ出ていない。 7～8月からは電気料金値上げが予定されているし、ガソリ ン価格も高止まっている。さらに、食品も今後値上げが始 まっていく。

		一般レストラン（経営者）	・このまま株価の安定がなければ、裕福層までもが守りに戻ってしまい、景気が良くなるような派手な購買欲がスポイルされそうである。円安を上手に使う世の中がうまくいくには、まだまだ期待値がゼロに近いので、当面は悪くなる一方である。
		観光型旅館（スタッフ）	・先行して獲得すべき団体型の予約がとれていない。この業界で働き始めて10年になるが、6月というオンシーズンで初めて予約無しの休館を経験する。根本的な戦略の見直しと管理の強化が必要であり、早急に改善に取り組む必要があると考えている。
企業動向 関連 (東北)	良くなる	出版・印刷・同関連産業（経理担当） 輸送用機械器具製造業（経営者）	・受注残は、こここのところ2か月連続して、前年同時期と比較して約10%増加している。 ・自動車業界は活気があり恩恵は受けているものの、製造業全体としては大手企業の設備投資はまだ慎重な姿勢であり、中小企業への波及効果はまだ先とみている。
	やや良くなる	繊維工業（経営者）	・良くなるような気配はあるので、このまま良くなることを期待している。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・現状の好影響がまだ持続すると考えられ、この後の年末商戦に向けた商品開発が活発化する。
		建設業（従業員）	・本年度の中央官庁からの発注見通しが出てきており、2、3か月以内に受注が確定する案件も確認できる。しかし、大型公共事業発注は、年度後半に受注が確定するものが多い見込みであり、2、3か月先の時点ではまだ受注結果が出そるっていないと推測される。
		輸送業（経営者）	・主要荷主の6月までの操業度は決まっているが、7月以降は操業度の増加が予想される状況になりつつある。
		通信業（営業担当）	・円安の進行による輸出関連企業の業績好転による地域経済の活性化に期待している。
		金融業（広報担当）	・株高円安傾向が続く。
		広告代理店（経営者）	・選挙があるので、期待は大きい。
		広告代理店（経営者）	・取引先の状況は、上向いているところが多い。
		司法書士	・消費税増税の駆け込み需要が増え、不動産取引が増えている。
		その他非製造業〔飲食物品卸売業〕（経営者）	・現在、全体的に景気が上向いているということもあり、良くなるのではないかと予想する。
変わらない	農林水産業（従業者）	・今年の春は例年より桃の開花が1週間位早かったので、その分早目の収穫になり、お盆前の出荷が予定され、高単価で販売できると期待されている。	
	食料品製造業（経営者）	・牛タンの人気は続き、売上等もこのままの状態推移で推移している。そして、7月になると中元がスタートする。全国版のテレビ番組の土産物ランキングで牛タンは全国2位だったこともあり、中元でも需要が高まることが期待される。	
	食料品製造業（経営者）	・デスティネーションキャンペーンが終わった後も継続して観光客が来てくれるかどうか少し心配である。円安で取引業者より値上げの要請が多くきており、原材料費の増加をどうやって吸収するか頭の痛いところである。	
	食料品製造業（総務担当）	・緩やかな景気の回復が見られるが、一般消費者の購買意欲の向上には至っていない。	
	食料品製造業（総務担当）	・出荷量の推移及び原材料の需給状況は変わらない。	
	木材木製品製造業（経営者）	・住宅需要は引き続き堅調に推移する。	
	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・元々売上が沈む時期である。また、特に売上が伸びるような要因も考えられない。	
	土石製品製造販売（従業員）	・しばらくは少し安定した状態が続き、今秋くらいからは消費税増税前の新規マンション建設や新築工事で忙しくなるものと見込んでいる。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・自動車部品については、期初に計画した数値を当面の間は上回るものと予想される。ただし、新興国経済が気になるところである。	
	建設業（経営者）	・物価、資材価格がどこで落ち着くのか不安である。経営もしばらくは厳しい。	
	建設業（企画担当）	・社内の技術者不足や材料及び労賃の高騰から不調案件が多く見られ、先行きの不安を払しょくできない状況にある。	
	輸送業（従業員）	・今後好転する判断材料が見当たらない。	
	通信業（営業担当）	・現在の上向き傾向は特殊要因によるもので継続性はなく、予断を許さない状況である。しかしながら、まだしばらくはこの傾向が続くと予測している。	
	通信業（営業担当）	・政治の決定が実生活に影響が及ぶまでは時間が掛かる。	
	金融業（営業担当）	・景気が上向くには、もう少し時間が掛かる見込みである。	

	経営コンサルタント 公認会計士	・足元の景気の上昇機運は当面続く。 ・建設関係は、人手不足、資材高騰が影響してなかなか受注が取れず、一休み状態である。少し時間が経過しないと解消しない。	
	コピーサービス業（経営者）	・復興が土木から建築に移らないと、各業種は潤わない状況になっている。景気が良くなっているという実感はない。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・景気的好調さによる飲食需要の高まりに期待はあるものの、このところ不調の中元贈答をカバーするだけの企画、対策に乏しく、不安が残る。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	・被災地及び県内各地を俯瞰したとき、おう盛とはいえずとも住宅需要がある程度見込まれている。しかし、販売価格への転嫁がなかなか難しく、コスト高の現状もあることから変わらない。	
	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	・今後景気に変化が起こる要素は見当たらず、3か月後も変化は無い。	
	金属工業協同組合（職員）	・やや半導体関連の受注量が出てきたが一過性である。医療関連もこのところ在庫処理等々により低調である。	
	やや悪くなる	農林水産業（従業者） 電気機械器具製造業（営業担当） 広告業協会（役員）	・農業経営を大規模にせざるを得ない状況にあり、今後、投資がかさむものと予想される。 ・大手企業の景気回復は地域中小企業の限界を超えたコストダウンによって支えられている。根本的な景気回復要素は見いだせないの、今後も悪くなる。 ・7月の選挙に向けて業界が様子見ムードになってきていることもあり、回復は選挙後になりそうである。
	悪くなる	-	
雇用 関連 (東北)	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・徐々にではあるが、不安定だった求人広告の申込が安定してきている。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・2、3か月先に通信会社の派遣事業部門を譲り受けることが決定している。そういった特殊要因により、売上等業績の改善につながる見込みである。
		人材派遣会社（社員）	・求人側が求職者側の希望に沿うように、給与条件を若干手直しして再度掲載する動きが見られる。売り市場になったとはいえず、そこまでして採用を急ぐ理由がはっきりしている証拠である。求人側、求職者側双方に勢いがある。
		人材派遣会社（社員）	・大卒の新卒採用を行っている企業が、内定辞退されたときに、採用をストップせずに追加募集をして、何とか数を確保しようとしている動きが見られるのが今年の特徴である。そこからは、先行きの好況感がうかがえる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・業績が上向いている企業が増えているので、今後、採用に向かうだろう。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・6月のボーナスはメーカー、中央で好回答が予想される。その波及効果と7月の参議院選挙結果で経済が活性化することに期待している。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で増加し、新規求職者数が減少する傾向は、今後も続くものとみられる。
変わらない	人材派遣会社（社員）	・政府の経済対策の地方波及効果がいまだ見えず、現在のところは、現業でも好材料が無い。相変わらず求人求職のミスマッチは継続しており、特に求職者数、層には課題がある。	
	職業安定所（職員）	・企業の先行きに対する不安感が強く、円安により多少受注が増えた状況であっても新規雇用を行おうとする動きが少ない。	
	職業安定所（職員）	・自動車部品やスマートフォンの関連製造業で求人数が伸びているが、原材料価格の上昇など、負の要素も注視しなければならない。	
	職業安定所（職員）	・月間有効求人数はここ1年、約9,000～10,000とほぼ同一で推移している。今後2～3か月先についても、増加や減少は考えられず、今のままの数字で推移していく。	
	職業安定所（職員）	・円安による増収について、管内の輸出関係企業に聞いたところ、生産量そのものが増えているわけではなく、為替差益によるものであり、地方の中小企業に円安の恩恵は少ないとのことである。	
	職業安定所（職員）	・求人数は若干の変動があるものの引き続き高水準が続き、有効求人倍率も高い水準が続くと見込まれている。職業別で見ると、建設関連、食料品製造などでとりわけ人手不足感が強くなっている。今後もその状況は変わらない。	
	民間職業紹介機関（職員）	・一部の求人に偏ったものになっており、全般的には変化の兆しが無い。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・アベノミクスも一部が潤うだけで、多くの人がその効果をいつまでも感じられなければ消費を控える。	
	アウトソーシング企業（社員）	・今のところ順調だが、復興関連の仕事は減少している。	

	職業安定所（職員）	・増加傾向が続いていた求人数も徐々に落ち着いてきており、今後大きく増加する要因は見当たらない。一方で、企業整備の話も数件聞かれることから、今後の状況を注視する必要がある。
	職業安定所（職員）	・今後、電気機械器具製造業、紙・文具卸販売業、労働者派遣業等において20名から100名規模の雇用調整が予定されている。また、7月以降の電気料金値上げや円安による原材料の値上げ等によるコスト圧迫を危惧する企業が見受けられる。
悪くなる	-	-